

令和元年度 武雄市立朝日小学校 学校評価結果							資料
1 学校教育目標			2 本年度の重点目標			達成度 A: ほぼ達成できた B: 概ね達成できた C: やや不十分である D: 不十分である	
静と動をわきまえた児童が笑顔で集う学校			①学びあう学校 基本的授業力を高め、静かに学びあう心と力を育む。 ②育ちあう学校 職員と地域の方の目配りによる安心感のある学校を構築する。 ③鍛えあう学校 食と健康を意識させ、地域とともに心身を鍛え活かす心を育む。 ④育てあう学校 家庭・地域・保育園・中学校とともに社会を生きる力を育む。				
重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む							
3 目標・評価							
①学びあう学校 基本的授業力を高め、静かに学びあう心と力を育てる。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●学力の向上	全教員の基本的授業力の向上 学びあう児童の育成	・全教員の授業力を向上させるために朝日小授業作り十箇条アンケートを年に2回実施したり、理科専科教員からの専門的助言の場を設定したりする。 ・基礎基本の学力の定着と学び合う児童を育てるために、自分の考えをもち、友達と関わり合って、進んで話し合い活動に取り組ませる。	・アンケート結果を公表したり、各自が1年間意識化して授業に取り組んだりする。 ・「静」の時間を意識し、立腰・話の聞き方・基礎基本の定着の校内研究に取り組み、指導方法の工夫改善を図る。 ・算数学習ノートに取り組み、基礎的・基本的な力を育成する。	B	・落ち着いた行動ができる児童を目指した校内研究に全職員で取り組んだことで、教室の学習環境や学習指導方法の工夫改善に努めることができたが、課題が残る児童もまだ見られる。	・「静」についての指導が次年度も継続して行えるように、年度初めの職員会議で全職員が共通理解できるように各部会からの提案をしていく。
教育活動	●志を高める教育	自分の夢や目標を持ち、実現に向けて努力できる児童の育成	・将来の夢や目標をに向け努力する気持ちを持っている児童を80%以上にする。 ・ふるさと朝日や武雄、佐賀を肯定的に考える児童を90%以上にする。	・将来の夢や目標を考える活動を各学年で設定する。 ・ふるさと朝日や武雄、佐賀を誇らしく感じることができる学習活動を各学年で年間に1活動以上設定する。	B	・各学年で、地域との関わりを大切にしながら様々な体験活動を通して、ふるさとを肯定的に捉えることができた。	・自分の夢や目標を持つことに関しての具体的な取り組みが学年によっては弱かった。今後は、年度当初にしっかりと計画立案を図っていく必要がある。
教育活動	○ICT機器の活用	ICT機器を最大限に引き出す指導方法の工夫	・ICT機器の効果的な活用のために、1ヶ月学級あたりの電子黒板、タブレットPC等の利用時数を20時間以上を目標に実践する。	・電子黒板、デジタル教科書、タブレットPC等ICT機器の効果的活用により、児童の興味関心を高め理解を深める。 ・ICT推進員と連携を図り、スマイル学習実施一覧表に沿って実施していく。 ・総合的な学習などで学んだことをペーパーにプログラミングし、動く喜びを味わわせる。	A	・ほぼ毎時間、デジタル教科書等、ICT機器を有効に活用した授業が計画的に行えた。 ・タブレットPCの活用で、児童の興味関心を高めながら学習を進めることができた。また、プログラミング教育は、児童は関心・意欲を高めながら計画的に取り組めた。	・スマイル学習は、教科書が変わるために内容的にも改善していかなければならない。TT担当者等の協力を得ながら、より効果的な実施方法を考えていく。
②育ちあう学校 職員と地域の方の目配りによる安心感のある学校を構築する。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●いじめ問題への対応	いじめのない学校作り	・「学校が楽しい」と思う児童を100%にするために、いじめアンケート、日常の観察を実施し、臨場指導による一人一人への目配り・気配りを徹底したり関係機関との連携を図ったりする。	・くらしのアンケート、いじめチェックリストで実態を把握した上で教育相談を実施したり、職員連絡会で生徒指導関係についての共通理解を図ったりし、個に対応することでいじめ問題を未然に防ぐ。 ・いじめの定義を周知し、覚知・認知をすくに行い、対策委員会を開く。	B	・教育相談期間を設け、一人ひとりと面談を行うことができた。子どもたちも、担任と話をすることができ、安心感が高まったと思う。年間計画に入れて、計画実施ができるようにしたい。	・年度初めの部会の立ち上げと計画立案の際に、教育相談週間を入れる。いじめ対策委員会の立ち上げも4月末までに行い、構成員によって把握・連絡・対応・周知を随時行い、いじめを絶対に許さないという指導を徹底していく。
教育活動	●心の教育	道徳的実践力の醸成	・日常的な「静」の時間を意識させるために、授業における礼儀の徹底や朝の挨拶当番、掃除などを徹底する。 ・考える道徳・議論する道徳を実施するために、ふれあい道徳などの授業公開を年1回以上行う。	・落ち着いた学校生活を送るように1日2回の静寂な時間を作る。 ・学級毎に輪番制による挨拶運動に取り組む。 ・清掃時に無言掃除の徹底を図る。 ・道徳的価値の理解をもとに本質に迫る発問を行い、自分事として考える授業を構築する。	B	・立腰タイムは静かにできていることが多いが、無言掃除の完全な定着には至っていない。 ・学年であいさつ運動を実施し、大きな声であいさつをする児童が増えたが、地域など日常的に自分からあいさつできる児童はまだ少ない。 ・ふれあい道徳を実施し、心の育成を保護者にも示すことができた。	・無言掃除の徹底に向け、委員会活動など児童自らが放送等で呼びかける取り組みを実施していく。 ・日常指導であいさつ運動を継続して実施することで、自分から大きな声であいさつができるよう習慣化を図る。 ・道徳の授業や評価についての研修を引き続き行うことで、道徳の授業の充実を図る。
教育活動	○特別支援教育	特別支援教育と教育相談の充実	・児童の特別支援教育と児童・保護者の教育相談を充実させるために、校内支援委員会と教育相談・特別支援教育部会を月1回程度実施する。	・家庭環境配慮児童について主任児童委員会などで支援の充実を図る。 ・校内支援委員会を中心に体制づくりに努め、全職員による児童理解と支援を行う。 ・定期的な保護者との面談を行い、家庭や専門機関との連携を図る。 ・個別の支援計画・指導計画を活用し、支援の実施・評価・引継ぎ等を確実に行う。	A	・校内就学支援委員会を7月に開きそれをもとにWISC等の検査や保護者との話し合いをし適切な就学支援を進めた。気になる児童について毎週の連絡会で職員間の共通理解を行った。	・家庭環境配慮、発達障害傾向のある児童等についてさらによりよい支援につなげるために、教育相談・特別支援教育部会を月1回確実に行い支援体制を改善していく。
③鍛えあう学校 食と健康を意識させ、地域とともに心身を鍛え活かす心を育む。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	元気な子どもを目指した健康・体力づくり	・進んで体力づくりに取り組む児童80%以上を目指す。また、マナーを身につけ、給食時間が楽しいという児童を80%以上にする。	・各学年で体育の時間や休み時間に1種目以上「スポーツチャレンジ」に取り組む。 ・給食の臨場指導と食育指導を推進する。 ・保健だよりや食育だよりにより家庭への啓発に努める。	B	・縦割り長縄や体育の時間を通して、スポーツチャレンジに取り組んだ。 ・各担任、級外による給食指導を継続した。通信で、健康に関する内容を家庭に発信した。	・スポーツチャレンジの結果を、職員や児童に周知し、さらに種目を増やして取り組んでいく。 ・栄養教諭との連携を密にして、各学年の栄養指導(授業)を実施する。
④育てあう学校 家庭・地域・保育園・中学校とともに社会を生きる力を育む。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	コミュニティスクールを中核とした地域と共に歩む学校体制の構築	・コミュニティスクールが効果的に機能するために学校運営協議会を年間2回開催する。	・地域学校協働本部やAスタと子育て意識を共有し、子どもの居場所作りを推進する。 ・保育園や中学校と連携した基本的な生活習慣・学習習慣の形成を図る。 ・学校安全見守り隊と連携した安全な登下校を確保する。 ・学校と地域の教育力を十分発揮できるよう、教育課程に地域人材を効果的に取り入れる。また、地域行事への積極的な参加を推進する。	A	・地域学校協働本部を中心として、町探検、田植えなど地域の教育力を活かした教育活動を推進することができた。 ・中野区では子ども塾が開かれ、児童が楽しんで参加している。 ・教育課程に効果的に地域人材を取り入れるための方途を考える必要がある。	・市教頭会が研究している地域人材一覧表を活用するなど、計画的に実施し、充実を図る。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	行事等の精選と教職員の多忙感の減少	・全職員が働き方改革を意識化し推進するために行事や業務の見直しを図り、スリム化する。また、定時退勤推進日を金曜日や休日前とし、定時退勤の徹底を図る。	・電子化による提出文書等の簡略化を図る。 ・行事を見直し、スリム化・一体化を探り、実行する。 ・定時退勤日に、互いに声を掛け合い、早く帰るように促す。	B	・夏季休業中の研修を1日に集中させるなど、時間確保に努めた。 ・タイムカードにより、自分の勤務状況を把握し、勤務時間の縮減に努めることができた。 ・金曜日の定時退勤日を徹底したことにより、18時には退勤する意識ができた。	・業務にメリハリをつけて力を入れるところとカットするところを明確にする必要がある。また金曜日には残業しないことを徹底することで他の日に効率的に業務を行う意識付けが必要である。
4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組							
・教育目標達成のために今年度も「静」の時間を校内研究に据え、授業の開始等での立腰、人の話を聞く、無言掃除などに取り組んだことにより、全職員が同方向を向いて指導を行い、基礎学力の定着や授業力の向上、心の教育面で一定の成果が出た。また電子黒板での授業やプログラミング学習等でICT機器の効果的な活用を図ることができた。花まるタイムや田植えなど地域の方々の協力があったおかげで、地域と連携した教育活動を実施することができた。今後も地域人材を発掘し、効果的に教育課程に位置づけ、充実を図っていきたい。 ・行事の抱き合わせや精選・内容の縮減を図ったために、職員の時間外勤務の時間は長くはなかった。しかし、業務内容についてはあまり削減されていないので、多忙感の減少までは至っていないのが実情である。今後も、効率的な働き方について見直しを図っていきたい。							
●は共通評価項目、○は独自評価項目							

●は共通評価項目、○は独自評価項目